

福井市障がい者自立支援協議会

令和6年度 第2回就労支援部会議事録

日時：令和6年 1月24日(水) 14:00～

場所：福井市きらら館 会議室4

協議事項

1. 今年度の取り組み報告

- ・ネットワークミーティング（相談・移行・A・B）の開催
- ・就労支援事業所等合同説明会
- ・就労支援ガイドブックの更新

2. 来年度の取り組み内容（案）

- ・特別支援学校実習の日程共有
- ・就労支援ガイドブックの更新
- ・就労支援事業所等合同説明会
- ・【新】制度研修
- ・【新】総合交流会

報告事項	<p>【事務局】欠席者（G・S・I 磯崎氏、C ネット吉田氏、福井県人材確保支援センター藤井氏、スタンドトゥギャザー爲國氏）、傍聴見学5名の報告</p> <p>今年度の取り組み報告</p> <p>① 就労支援ガイドブック</p> <p>【事務局】今年も福井市障がい者就労支援ガイドブックを更新した。利用者から事業所を知りたいという問い合わせがあった際、市の方でも活用している。また相談員に話を聞いたところ、事業所を選ぶ際に利用者に貸し出し活用しているとのことだった。来年以降も取り組んでいけたらと思っている。</p> <p>② 相談支援事業者連絡会</p> <p>【谷川氏】令和5年8月17日（木）14時～15時半、福井市きらら館多目的ホールにて開催した。34事業所、傍聴1名、行政から3名出席でたくさんの方に参加して頂いた。協議事項として、ワークショップの趣旨説明・意見交換・まとめという順番で行った。ワークショップの趣旨として、普段から関わりのある就労事業所と相談員がより連携を深めていくことを目的に開催している。今回のワークショップはGSVを用い、事業所の視点・相談員の視点、それぞれの考え方を理解し連携していくことで、よ</p>
------	--

り良好な関係を気づいて行けたらと思うという趣旨を、議長代理として足田氏に説明してもらった。GSVでは2件、1ケース40分時間を取り実施し、最後に望月氏より全体の総括を行った。

③ 就労移行支援

【伊藤氏】令和5年9月22日（金）14時～16時まで実施。協議事項として県の雇用促進支援事業より、雇用促進のための就労先情報を研修形式で行い、就労のタイミングや利用者支援の意見交換を座談会で行った。各事業所の議題の共有という点に関して、非常に有益な機会であった。しかし、本来のネットワークミーティングの趣旨からずれている議論が一部あり、当事者の方がいなかったのが一番の要因かと思っている。なかなか部会の中で意見を頂くのは難しいと思うため、こういった小規模の所から当事者の困りごとや意見を聞き反映できる機会を作っていかなければいけないと感じた。

④ A型

【足田氏】令和5年10月18日に開催。協議事項として、制度が非常に変わってきており実地指導で指摘をたくさん頂く機会がある。そういった指導事項に対する意見交換と福井市へ質疑応答を行った。協議の結論として、サービス提供にあたる具体的な運用の適正化を図るという事だった。事業所から疑問が集中したのが3点。個別支援計画書などの書式について。各事業所フォームが違い、抜けているところがあり指摘を受けることが多い。今国全体でもそういった書式の標準化を図っていくことになった為、福井市でも同じ書式で計画を立てることが出来るよう書類整備の体制を作っていきたいという話があった。2つ目、サービス提供の記録について、就労事業所は就労サービスを提供する訳だが、その都度本人のサインをもらい確認するところ、1カ月分まとめてもらっているところがいくつか見受けられたという。1カ月分まとめて確認をもらうのは不適切と指摘された。3つ目、欠席時対応加算について。欠席連絡の記録だけではなく、相談援助を行うよう指摘があった。A型のミーティングであったが、B型や他事業所の方も来られた。自分たちの事業運営に関する関心の高いテーマだった。今後、制度改正が相次ぐ状況の為、そういった質問を増やしながら事業者として適正な運営に努めていきたい。

⑤ B型

【山崎氏】令和5年11月29日に実施した。参加者15名。協議事項として、事業所における人材育成や職員研修に関する課題を、オンライン研修サービスを用いたワークで実施。オンデマンド形式では、利用できるオンライン研修サービスを使いながら、人材育成方法の1つを疑似体験し

た。また理解促進も含め強度行動障害支援とリワーク支援の2つのサービスを取り上げて行った。実際それを行うことで、業務の中で時間を確保し検証を行うことが難しいと感じていても、オンデマンド形式ということで、それぞれ隙間時間を使ってそれぞれにあったテーマを選べる為、有効な方法であるという意見があった。また言語化の難しい内容に関しても、動画やテキスト・ワークシートで構成されていた為、視覚的にも分かりやすく、新人職員や業界での経験が浅い職員も理解しやすかったという意見もあった。グループワークに関しては、2グループに分かれそれぞれの事業所での人材育成の課題とその実践に関する意見交換を行った。他業種からの中途採用の職員が多い傾向にある中で、7事業所での事業内容だけではなく、福祉職としての姿勢や関わり方など、多様な内容を伝える必要があるという事を多くの事業所が感じ、それぞれで模索していることが分かった。また通常業務をしながらの人材育成に各事業所が課題を感じている中で、効率よく学ぶことができる研修サービスの活用であったり、他事業所と課題共有しながら学ぶことが出来るのかが求められていることが分かった。

⑥ 就労支援事業所等合同説明会

【藤野氏】令和5年10月21日に10時～15時ベルあじさいホールで実施。会場の準備について前日16時から4時間程で準備することが出来た。来場者及びアンケート結果について報告する。来場者数150名、アンケート回答64件。参加者の年代で多かったのは就職を検討している高校生～19歳までの方・20代・30代の方々。住まいは福井市を中心にチラシの配布をした為、市内の方が約45パーセントだった。周知方法について、チラシによる周知が14名、残り病院や事業所からの紹介が多かった。参加事業所に対して行ったアンケート結果も報告する。会場の立地条件について13事業所中12事業所が良かったという評価だった。自家用車での来場がしやすい場所だったという事や、3階の屋外駐車場に停めることで会場へのアクセスが短いということ、買い物ついでに来られるという声が多かった。逆に悪かった点として、エレベーターの開閉時間が短く車いすの方への支援が必要だと言う意見があった。レイアウトについて、10事業所が良かった他3事業所が普通という評価だった。良かった点は全体が見渡せる配置や、休憩スペースがうまく活用されているという意見、改善点としてはサービスや事業内容が似ている事業所をまとめてはどうか・感覚過敏の参加者に向けパーテーションを設置するといった意見があった。最後に合同説明会全体の満足度について報告する。13事業所中12事業所が良かった、1事業所どちらでもないという回答だった。

<p>協議事項 報告</p>	<p>相談支援連絡会のご協力をいただき、司会進行と相談支援専門員の方に困っている参加者に声掛けが出来たというところが良かった。次回の改善点として、丹南地区をもっとPRして欲しいということや、小中学校の支援学校に周知してはどうかという意見があった。</p> <p>来年度の取り組み内容</p> <p>① 特別支援学校実習の日程共有</p> <p>【中谷氏】来年度の特別支援学校の実習の取りまとめ等行いたいと思う。来年度の第1回部会が5月を予定している為、それまでに支援学校の先生方と打ち合わせをしたいと思っている。</p> <p>② 就労支援ガイドブックの更新</p> <p>【中谷氏】来年度以降もまた更新する予定にしている。</p> <p>③ 来年度の取り組み内容についての議題</p> <p>■来年度の取り組み案についての説明（資料4参照）</p> <p>【中谷氏】4月制度研修：報酬改定・制度改正等について福井市内全就労支援事業所を対象とした研修を開催している。今年度のA型ネットワークミーティングにおいて、事業所を運営する側と行政へ直接質疑応答できる研修企画は大変反響を呼んだ。変わりゆく制度の中で、自立支援協議会の場を通し事業所と行政が共に制度を学び適切な事業所運営ができるよう研修の機会を持てる場を部会としてつくっていきたいと思っている。</p> <p>9月合同説明会：今年度は4年ぶりにまずは開催するということが大きな目標だった。来年度以降は合同説明会の定着化を図っていきたいと思う。9月仕事支援課主催のワークフェアとの同日開催、これについては毎年9月の第一週目の土日と決まっております。ワークフェアは基本的に支援学校の現生徒、卒業生、保護者が主な来場者であり、同日開催することでメリットがある。</p> <p>12月総合交流会：今年度はAB移行相談それぞれ4つに分かれネットワークミーティングを開催したが、そもそもの事業所数が大幅に違うことや、分かれてする意味があるのか？等研修参加人数の減少などが課題となった。来年度以降はAB移行3つの研修を新たな研修会に統合し、主に事業所間の交流や繋がりを目的として開催する予定。</p> <p>■予算化について</p> <p>【中谷氏】今年度は事業の予算が0だった。ショッピングシティベルのご厚意で、今回の会場費は無償で使用させていただき、来場者用へ粗品のクッキー代を就労部会員でお金を出し合った。前進主義には無償でチラシを最終調整していただき、経費を捻出し開催ができた。しかし、費用や労力や運搬のためのガソリン代、部会員以外にも協力要請し動いて頂いた背景</p>
--------------------	---

意見

を思うと、福井市の方で就労支援部会にかかる予算をしっかりと組んでいただきたいと思った。合同説明会開催の来年度予算を要望している。

■就労支援部会委員の運営協力について

【中谷氏】 部会長として一年間取り組んで思った反省点とし、部会員の方々に行事開催や企画について適切な案内ができておらず、部会員の皆様と協力して運営できてなかったことを深く反省している。今後協議会を運営するにあたり、意見を反映させながら皆さんと一緒に運営をしていきたいと思っている。

【足田氏】 就労支援部会の少し堅苦しい場で年に2、3回集まってきた訳だが、本当にこのままだと年に2、3回会うだけで終わる堅苦しい場になってしまう。就労支援部会というのは福祉事業者が中心になって運営する。今A型3つ、B型3つ、移行が2つの8社で運営している。そこだけでいうと1年間で約30回弱集まり、案を出し実際準備をし、資料作り等をしてきた。そういった中で、これだけたくさんの方がいるが、1回も出たくないや関わりたくない、何の意見も出たくないではなく、言われてないから行っていないだけなのだと思う。1番印象的だったのは合同説明会時に職業センターや高次脳センターは何故ブースをださないのか？と。合同説明会時学校の生徒が来ている為、何か発表の場を設けられたら、生徒や保護者が関心を持ってくれるのではないかという案が出てもいいと思う。初めてやることばかりで周りが見えていなく必死だった。1年終えて、ふと見たときにこれからも8社で勝手に決めて勝手にやって、年に2回案内をするよりも、声だけかけて参加不参加それぞれの立場があると思うので自由だと思う。それぞれの立場の代表として来て頂いている為、うちの組織はこういった思いがあるといった話が聞けたらと思う。今回、運営以外の制度研修も基本的には事業者の制度を事業者が理解するための会。その中にはそれぞれの立場に若干関わってくるところが出てくると思う。例えば今ではないが送迎加算が減らされたり廃止されれば送迎しなくなる事業所が出てくると思う。そういったことをある日突然知るのではなく一緒に勉強の中で知っておくと、送迎加算や食事提供加算がそれによって自分たちの卒業生の行ける事業所が変わって、受ける待遇は変わってくる。それ以外の部分も含め皆さんと学んでいき、皆さんと運営していきたいと思っている。また改めて部会長から運営参加協力の案内をしたいと思う。

■今後の活動について

【中谷氏】 ご意見やご要望があれば一人一つずつ話していただければと思う。

意見	<p>【加藤氏】合同説明会に参加した。移行・A・Bが一緒にまた相談を伺う機会もあり、ワンストップで各機関の話を聞けるというのが意義のある場だと思った。改善点で言うと、周知を広げた方がいいと思う。全体の方向性としては賛同する気持ち。</p> <p>【中野氏】来年の取り組みについて、合同説明会とワークフェアと同日開催をしていただくという事で、合同説明会の前後にワークフェアに来場するといった効果もあると思う為、いい発案をしていただいたと思っている。取り組みとして、障がい者向けの就職支援セミナーを実施しており、毎年9月に事業所利用者対象に一般就労に向けてのセミナーを実施している。去年度まで社協の会場を借り3人程度等参加していただいていたが、足田氏より「事業所に出向いて開催するのはどうか?」という案を頂いた。今年はそんな風で開催し、3事業所、全部で6名の依頼があった。来年度も事業所に出向いて開催出来たらと思っている。部会参加や行事も案内いただけたら参加したいと思っている。</p> <p>【野村氏】合同説明会に参加出来なく申し訳なかった。来年声を掛けて頂ければ参加したいと思っている。研修も年間実施している為また案内したい。就労支援ガイドブックに関して非常にわかりやすい。更にバージョンアップしていただけたらと思う。</p> <p>【松嶋氏】今年は足田氏に依頼し、2ヶ月に1回各事業所さんが説明会に来ていただくというような会を設けていただいた。月曜日にはワークハウスにも説明していただき、保護者が直接事業所のことを詳しく聞ける会ということですごくありがたい会だった。平日のお昼間ということで、保護者の参加が少なかったのは残念だったが、また来年以降継続できるように続けていきたいと思っている。来年に向け、就労支援ガイドブック分かりやすくしていいのだが、データを簡単に集約して保護者に見せたいという時、Excelデータでいただけたら編集もできるしありがたい。例えば仕事内容を簡単にまとめる等保護者に分かりやすく出来たらいいと。</p>
質問	<p>【事務局】例えば業種ごとにとということか?</p>
回答	<p>【松嶋氏】仕事内容がすぐ分かり、この業種だとかこの事業所だと。様式が決まっているのか?</p>
質問	<p>【事務局】決まっている。その中に皆さんの事業所に書いてもらっている。</p>
回答	<p>松嶋氏の求めている物は、その中に書いてある項目の一覧ということか?例えば開始時間や送迎ありなし等書いてあるものを一覧にしたいということか。</p>
質問	<p>【事務局】決まっている。その中に皆さんの事業所に書いてもらっている。</p>
質問	<p>松嶋氏の求めている物は、その中に書いてある項目の一覧ということか?例えば開始時間や送迎ありなし等書いてあるものを一覧にしたいということか。</p>
回答	<p>【松嶋氏】色々な項目の一覧がこちらでピックアップできるような。</p>

意見

【足田氏】リストのようなものか？所在地、作業内容、送迎ありなし等4つ5つ。1枚1枚めくってその中から自分に合ったところを見つけ出すのではなく、パッと見て分かるリストがあるといいと思う。

【松嶋氏】検討お願いしたい。

【蔭山氏】就労支援ガイドブックについてとても助かっている。データはほんとにピックアップしやすいし、編集もしやすい。それが可能ならデータであるとありがたい。合同説明会についてはとても素晴らしい企画だと思った。1つ1つ日程調整し見学に行くのは日数もエネルギーもいる為、一堂に開催というのは凄くいいと思った。ただタイミングが合わず、保護者懇談会で発信できなかった。説明する際の行事イベントのタイミングややり方を工夫していかないといけないと思った。学校としては、事業所を知るとい所で話を直接聞く機会がない。その為来校していただくとありがたい。

【早川氏】合同説明会に参加しいい経験になった。ワークフェアの就労支援プロジェクトの一環という事で相談コーナーを作ったが、ほとんどいらっしゃる方がいなかった。しかし、合同説明会の方では思ったより暇な時間が少なかった。そもそもA型B型移行て何？とい方が何人かいて、1から説明することがあった。A型とはや就労のサービスとは等そういった説明の時間があっても良かったのではないかと思う。スクラム福井も一般高校の先生より研修依頼がたくさんある。制度の狭間というか繋がらない方の相談が多いため、そこにどう切り込んでいくかというのもみなさんから意見頂戴したい。スクラム福井として声をかけられ就労のサービスについて説明して欲しいといった時に、事業所が一緒に来て頂けたり、こちらでマネジメントするのは大変だと思う時就労部会に声掛けすると一緒にきてくれる方を推薦してくださる等もう少しシステム化していくと助かる。

【大塚氏】ワークフェアと合同説明会に参加した。特別支援学校、今年度は実習期間中からの卒業後の定着支援というところで繋いでいき連携させてもらった。最近、一般高校・大学の方からの案件が増えており、ブースに来て頂いた方も一般中学生の娘の将来が気になる・どういった進路があるのかといった相談だった。今後そういった所にも広く活動が伝わっていくといいと感じた。

【牧野氏】センターで支援している患者様の約半数が、就労の支援を希望されており、年齢の数として上がっている。復職支援が多いのだが、今まで勤めていた会社を辞めざる得ないということで新規就労を目指されている方のサポートを、色んな方からのサポートを受けながら支援し

<p>質問 意見</p>	<p>ているような状況。来年度もお力を借りながら仕事のサポートをしていきたいと思っている。合同説明会もお力になればと思っていたが、センターのイベントと重なって参加出来なかった。来年協力させて頂きたい。</p> <p>【田中氏】病院に来られている方、入院されている方、みんな就労をしたいという思いがあるが、仕事から離れたり、仕事に行けないという方と病院で会うことが多い。そういった方の就労を繋げていけたらと思い今年度参加した。私個人として、協力できるようなところがあればしていきたいと思う。精神保健福祉協会の中でも、協力していかないといけないと感じている。福井市内の状況も理解でき、県域でやっていることや、自立支援協議会の部会の内容の取り組みの方法に違いがあると感じている。そういったところも、一緒に声を出していけたらと思っている。</p> <p>【中谷氏】部会の方から意見等あるか？</p> <p>【山崎利道氏】予算について、全国で就労支援フォーラム日本というのがある。就労継続支援 A 型 B 型が全国から集まる学習会で、福井市役所の職員や事業所職員、誰かが行けるような予算をつけて欲しい。東京で毎年 1 2 月にあり、1 1 月には応募締め切りになる。旅費や参加費を予算化して欲しいと思っている。障害者総合支援法の目的は、障がいの有無に問わず地域みんなが当たり前で生活できる、つまり企業にとっても企業で普通に働けるそういう社会を目指しているのが理念だと思う。この理念に近づくためには障がい者の計画にも書かれているが、就労 AB から一般就労へ移行ということが書かれている。こういったことを実現させるためには、事業所がどんどん変わっていかねばいけないと思う。福井県は他県と比べシェルターのワークショップが多い。しかし県外は床屋をやっていたり居酒屋や農業をやっていたり、健常者とともにやっている事業所が多い。そういう事業所を見て、目指して、障害者事業計画に則って一般の方に送っていける就労支援になっていくといいと思う。まずは見に行くことが大事のため予算をつけて欲しいと思う。</p> <p>【足田氏】たくさんの意見を頂きありがたい。今年一年かけてやったことは、去年集まった時に皆さんから出た意見が始まりだった。ここの議論がスタートでやはり意見を出すのは、ここにいる皆さんの意見が原点だと思っている。意見の吸い上げや、議論への参加や運営の協力を怠ってきたというのが今回の反省である。今回傍聴に来ている富田氏にも、合同説明会で非常に力になってもらった。今欲しかったのはアイデア・意見で、原点は皆さんが抱えている患者や利用者であったり相談者の意</p>
------------------	---

見というのが、事業所にいるともう既に来ている人の話をずっと聞いてしまうだけなので、ここに来るまでの人たちやここから出ていく人たちの意見を言ってもらえれば良いと思う。みんなで力を合わせ、来年はもっといい事業所にしていく為に頑張っていけたらと思う。

【中谷氏】それぞれの事業所の代表でもある皆さんと一緒に、来年度以降も就労支援部会を盛り上げていきたいと思っている。

次回 令和6年5月15日14時～